



技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター冬季号<第54号>(平成14年12月15日発行)

巻頭言

国際テロの回避を願う

九州支部副支部長兼災害・技術支援委員長 清水 博和 (建設・福岡)

北朝鮮拉致事件の真相が明らかになり、1/4世紀前のことであるが、日本人として心が傷む思いがする。私は3歳まで北朝鮮で育った。また57年前の終戦時の旧満州の日本人残留孤児についても、小学校5年生までは奉天(現瀋陽)であった関係で他人ごとではない感じである。

昭和20年8月6日朝8時過ぎ広島市は世界初の原子爆弾の犠牲になった。満15歳の私は、24時間後の同時刻に、広島駅の2駅西側にある己斐の駅に降り立った。広島市の東の端まで見渡す限り瓦礫の山の焼け野ヶ原であった。負傷者が横たわり、歩ける者は家族を探していた。

将にこの世の地獄を目の当たりにした。57年間の1日違いは1瞬の出来事である。あときの光景を思い出すと、私が今生きているのは奇跡の感じがする。

ニューヨークの世界貿易会館テロ攻撃の映像は、57年前の広島市の瓦礫を思い出させた。

殴られたら殴り返す、これが米国の報復手段であるが、この理論はパレスチナ側にも当てはまる理論であり、終局が見えない戦いといえる。ただ、何にも関係のない普通の人々が巻き添えで、犠牲になる結末がテロ行為の卑怯な手段であり、世界倫理の輦轡を買う結果となり、報復攻撃の正義の論拠でもある。米国の攻撃は、テロの根拠地を攻撃するが、突然の攻撃で、やはり一般人の犠牲者も発生する。何とかならないものであろうか。

今、核保有国は、米国・英国・仏蘭西・露国・中国・印度・パキスタン・そして核保有のための研究開発中という北朝鮮と、疑惑に包まれているイラクが挙げられる。

万一、核保有国の常識外れの指導者が、一発の核弾頭のボタンを押したとすれば、どのような結果に発展するのか、空恐ろしい感じがする。主要都市に炸裂したとすれば、何千万の市民が犠牲になると想像される。そして報復として相手方の主要都市に原子爆弾が炸裂するであろう。また瞬時の出来事であり、2都市間に留まらないのではないかと心配が増幅する。

広島市の原爆投下直後の惨状を目撃した被爆者の私は、その惨状が判然と目の前に想像できるので心が傷むのである。昭和20年5月中旬、一度も空襲の経験のない広島市の中央にB29爆撃機1機が飛来して1発の爆弾を落下傘付きで投下した。そして、8月6日のB29爆撃機での原子爆弾投下である。5月の爆撃は予行演習と解釈すべきであろう。空襲被害のない状況の木造住宅密集地での原爆被害効果がどの程度なのか実験したと推定する。

このような過去の歴史から考えると、先般北朝鮮がミサイル実験を発射したのは日本を標的とした核弾頭の射程実験であったのではないかと疑問に思うのは心配のし過ぎであろうか!

過去の北朝鮮は、韓国全土の赤化のみならず、工業先進国日本の併合が大目的であったと想像されるが、今や、東西冷戦は終末を告げ世界平和の基礎を築きつつある時であることを、よくわきまえて今後の北朝鮮の政策を改めて欲しいと思うのは日本全国民の願いである。

技術者倫理が議論される中で、世界的な倫理問題を論じてしまいました。日本の優秀な工業技術水準は、2名のノーベル賞の受賞者で証明済みであり、日本技術者の快挙であります。おめでとうございます。最後に明るい話題で終わりとします。

技術士業務3年間の感想

九州技術士センター監事 向江 宗利 (経営工学・福岡)

私は昭和39年の技術士登録以降、サラリーマン生活を終えるまで、35年間、技術士の名称を使つての仕事はありませんでした。従つて、私の技術士業務は、平成11年、熟年になってからの開始となりました。その間、折角取得した資格を生かして、仕事がしたい願望は常にありました。

私の専門は経営工学部門の品質管理なので、先ず、ISO9000の審査員になるのが手取り早いと、軽く考え、早速JAB認定コースの研修会を受講して、資格を取得しました。何処かの審査機関に入るべく、働き掛けをしましたが、1年掛つても手応えがありません。その大きな理由は65歳の年齢制限でした。今度はコンサルタントなら年齢制限が無かろうと方針を切り替えたものの、顔と実績がなくては、そう簡単にはいきません。意気消沈、思案投げ首。先輩技術士のアドバイスもあって、暇な間に、仕事の種になるものを幅広く取り込もうと、2年掛りで労働安全コンサルタントと環境カウンセラーの資格を取得し、今日に至りましたが、目下開店休業中です。

その間、技術士会事務局に出入りし、多くの技術士の方々と交わる機会を得、また、その紹介による仕事などを通じて、技術士活動の概要が判ってきました。

今の長期不況のせいもあってか、独立技術士の経営は厳しく、まして熟年者には適当な仕事が乏しく、皆さんが技術士の社会的認知の高揚を目指して、また技術士業務の開拓に辛抱強く努力されているのを拝見しました。その辺り、残念ながら、私が技術士登録をして間もない頃に聞いていた状況と余り変わっていないように思いました。

しかし、近年、国の施策、社会、産業界の諸事情の変化により、技術士のニーズが高まり、その出番が増える気配が感じられます。私も、技術士業務の発展のため、微力ながら、皆様とともに頑張りたいと思います。

技術士の英訳は、以前 Consulting Engineer が使

われていました。私共熟年者にはその呼び名がピッタリ来るように思います。と申しますのは、例えば、私の中小企業との付き合いの経験から、コンサルタントの中小企業の指導、支援活動の成功のキーポイントは社長即ち"おやじさん" 教育をいかに巧くやるかにあると思います。そして、さらに重要なことは、とくに今の時節、経営上の問題点を把握・分析し、その対応策を立て、そして企業の適切な進路を見出すために、"おやじさん"の良き相談相手になることではないでしょうか。熟年技術士の皆さんは経験的に恐らく同様な感想をお持ちだと思います。

私は、この例に限らず、それぞれの分野で、豊富な体験に基づく Consultingこそ熟年技術士ならではの重要な役割と信じ、密かに魅力と情熱を感じています。

話しは変わりますが、近年、日本は世界一の長寿国になり、男性の平均寿命の統計値が約77歳と発表されています。最近、この数字は、誤解により、熟年者の意欲に水を差している向きがあることを知りました。この数字の正確な意味は現在0歳児の平均余命値ということで、熟年者にも同様に平均余命値があるのです。例えば、65歳の人の平均余命は約17年であり、70歳の人は約14年、80歳の人で約8年あると言うことです(総務省発行「日本の統計」より)。つまり、それらの年齢の人々の平均寿命は82歳、84歳、88歳が正しいのです。そう考えてくると、私達熟年者にとっては、ものは考えようで、寿命が延びる?計算になり、もう一仕事も二仕事もできるのではありませんか。

私は、この様に発想を変えることで、新たな元気が出てきたように思います。

しかしながら、他方、そのような発想を超越して、肩を張らず、淡々とした心境で活躍しておられる熟年先輩技術士の方々を身近にお見受けしますが、未熟な私は全く敬服するばかりです。

平成14年度第3回・第4回理事会 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

平成14年度第3回理事会 (9月11日)

1. 審議事項 (特記すべき事項なし)
2. 報告事項 (この他の事項は省略)

(1) 文部科学省による実地検査結果について
定時総会終了によって新役員が決定したあとの登記が遅れていた事の指摘あり。

(2) 8月28日の毎日新聞朝刊、及び29日の毎日新聞、産経新聞、読売新聞に報道された試験問題漏洩疑惑に対する措置及びその後の調査について報告された。調査結果は、次回以降の理事会で報告するとの事。択一問題が存在する限り漏洩疑惑は続くとして見て大半の理事から改善意見が出たが、一部の理事からは、米国では択一式が主流である等の意見があった。

(3) 会費見直し検討の中間報告について
財務委員長から、現行年会費24,000円を2,000円値下げする中間報告案が出されたが、シュミレーション等の検討結果も無く簡単な資料説明のため、明確ではないが現状ではもっと下げなければ効果が薄いとのほぼ全員の意見あり。次回までに再検討となった。近い将来には現行の半額12,000円にして各支部のみの会員も吸収可能にし、会員数も倍以上に出来ると大多数は考えている。

平成14年度第4回理事会 (11月13日)

1. 審議事項

(1) 防災特別委員会の設置

大規模災害発生に際して、日本技術士会として組織的に災害対応活動を行い、社会貢献に寄与する事を目的として、各種の事業を行う為の設置が議決された。

(2) 役員選挙管理委員会委員の委嘱

支部及び部会から推薦された25名の方々について原案通り了承。(九州支部からは水上信照先生)

(3) 常設委員会委員定数等の改定

会員数増の実態と今後の増予測に伴い、各常設委員会定数改定案が出され、原案通り了承された。倫理・財務・報酬・業務各委員会17名(現行15名) 政策・事業・広報各委員会22名(現行20名)

2. 報告事項 (この他の事項は省略)

(1) 一次試験受験状況 (受験者数)

共通科目1,831名(福岡181) 基礎科目23,697名(2,424) 専門科目23,468名(2,398) 適性科目25,272名(2,604)

(2) 総合技術監理部門受験状況 (受験者数)
10,489名(福岡863)

(3) 平成14年度第2次試験問題漏洩疑惑に関する確認調査について

調査項目、確認調査結果、今後の対応等について事務局長からA4ペーパー1枚の報告があったが、大半の理事から、抽象的で理解しにくいとの意見あり、試験センターを含め、技術士会全体の危機と受け止め、管理マニュアルの策定は勿論、管理体制の一層強化を理事会で確認した。

(4) 平成14年度総合技術監理部門の出題について
(五肢択一のⅡ-1-19出題ミス)

予定していた正答は⑤であるが、選択肢④は「ADSL: Asymmetric Digital Subscriber Line」であるべきを

「ADSL: Asynchronous Digital Subscriber Line」としたため、これも間違いとなり、結果として正答が2つになってしまった。この対応として、受験者全員に不利にならない措置として、全員に得点を与え、採点を行う事とした。今後、再発防止のために原因の徹底的調査・究明と防止対策を講じる旨をプレス発表した等の報告が事務局からあったが、これも大半の理事から、出題方法、出題委員の質、五肢の是非論、他にも類似ミスと思われる問題があった等の意見が多出した。

(5) 会費の値下げについて

前回理事会で2,000円程度の値下げに対しもっと下げるべきだとして、次回送りとなっていた本件は財務委員長が業務委員会の意見提出も求めて、更に検討中であるとの報告あり。

業務委員会討議の中味は①会費の値下げは基本的に賛成②今後5年間程度のシュミレーションを実施して欲しい③値下げは今回に止まらず継続的かつ段階的に行う方向での検討を要望する等であった。

九州・新長期ビジョン 並びに新技術・異業種交流事例研修会

九州支部技術士継続教育（CPD）委員長 内山 順治（林業・佐賀）

日時・場所 平成14年 9月10日 13—17時 博多
パークホテル

経緯 低迷するわが国不況を克服しようと、懸命の
対策が試みられています。

その大きな柱である生活の質の向上と地域の
活性化を図る社会資本の整備と適用される新
技術の現況を九州に焦点を当て、これからの
展開を考える研修会です。

かねて九州支部の活動にご援助戴いている九
州地方整備局企画部長熊谷清氏（技術士・建
設）、並びに元㈱日本技術士会理事・九州支
部長であった黒瀬正行氏（技術士・建設）の
ご努力により実現しました。ご尽力賜った関
係各位に深く感謝致しますと共に厚く御礼申
上げます。

I 「九州・新長期ビジョン」

——21世紀九州地方整備の構想——

九州地方整備局企画部長 熊谷 清先生
自然、社会、歴史、技術・予算的に15—20年先ま
での具体的目標を平易に語られた。

(1) 公共事業関係長期事業の見直しについて

下記10長期計画のうち、8計画は平成14年度が最
終年度、今後の見直し改訂が必要。

- ・道路整備5ヵ年計画 H10—H14
- ・治水7ヵ年計画 H9—H15
- ・港湾整備7ヵ年計画 H9—H14
- ・下水道整備7ヵ年計画 H8—H14
- ・住宅建設5ヵ年計画 H13—H17
- ・特定交通安全施設等整備7ヵ年計画 H8—H14
- ・空港整備事業7ヵ年計画 H8—H13
- ・海岸事業7ヵ年計画 H8—H14
- ・都市公園等整備7ヵ年計画 H8—H14
- ・急傾斜地対策事業5ヵ年計画 H10—H14

(2) 21世紀型の新たな公共事業関係計画

（上記従来計画を下記計画に改革）

全体として1本の計画で決定。計画期間5年。社
会資本整備の重点化、集中化を促進。

・横断的政策テーマ

アウトカム目標（5—10年）主要事業、関連事
業（併用時期、概算事業費）、関連ソフト政策ほか

・暮らし

①主要交通機関、歩行空間、住宅のバリアフリー
化②主要な鉄道駅等周辺の主な道路のBF化率
（7% H14→53% H19）③バリアフリー住宅ス
トックの割合（2.7% H10→7% H15）④市街地等
幹線道路の無電柱化率（8% H14→13% H19）⑤
ボトルネック踏切り改良箇所数（50箇所 H14→
500箇所 H22）

・安全

①床上浸水未解消家屋数（10万戸 H14→6万戸 H
19）②道路交通事故死者率（1.13人/億台キロ H
13→1.04人 H19）

・環境

①復元・創出された砂浜の面積（290ha H12→
560ha H18）②合流式下水道における未処理水流
出削減率（H19までにH14比18%削減）③都市に
おける公園・緑地の確保率（10.3万 ha H10→11.8
万 ha H15）

・活力

①拠点的な空港・港湾への道路アクセス率（59%
H14→68% H18）②国際海上コンテナ貨物のト
ータル輸送コスト低減率（H18までに7%削減H12
比）③3大都市圏の国際空港における国際航空旅
客・貨物の容量（4,300万人・290万トン H13→8,100
万人・480万トン H22）⑤羽田空港の発着可能回数
（56回/時 H14→80回/時 H24）

(3) 九州ビジョンの概要

・九州の地域特性（九州らしさ）

一國に匹敵する潜在力、アジアに近い、都市と
自然が身近、災害多発、地理的制約が多い、競争
力低下が懸念される製造業。

・九州の将来像

①どこに住んでも豊かな自然と都市の利便性を享
受できる暮らし②アジアとともに発展し活力と創

造性あふれる産業経済③一つの広域国際交流圏としてアジアにおける国際化を先導する九州。

・基本施策

①暮らしを守る国土と環境の保全・再生②自然と都市サービスを楽しむ都市・自然交流圏づくり③地域の活力を支えるネットワーク型交流基盤づくり。

・施策展開

安全国土危機管理、循環型社会の基盤造り、多自然居住地域、環海交流圏。

・施策の推進方策

多様な主体参加と連携のコミュニケーション型行政の推進など。

(4) この他、国土管理の基本、流域圏を考えた九州の河川事業、交流活性化を推進する道路等を、九州各県、識者と策定された詳細な計画、資料により平易明確に解説された。

II 「新技術開発と異業種交流事例」

——新技術の開発と体系化・普及を地域で実践——

太洋技術開発株式会社社長 黒瀬正行先生

開発、蓄積された新技術を海外、国内で普及適用されている画期的な内視鏡によるクラック調査と対策工法の解説、並びに長崎佐賀を中心とする海外全国との文化の違いを克服しての交流チームワーク作業の成功例、挫折例の貴重で興味深い体験を平易に話された。

10/26 CPD研修会とアンケートの概要

CPD副委員長 松原 好直 (水道・北九州)

田辺 努 (総合技術監理・機械・北九州)

支部CPD委員会では、今年度から、九州支部総会の総意による試みとして、土曜日にA部門の集中研修(6時間/日)を4回/年開催することになりました。この集約は、CPD研修の効率向上と、会員の出席容易さを目指し、“出かけ易い時にまとめて、それなら遠いところでも出ていける”という、ご要望にお応えし、10月26日に開催しました。

当日は、皆様のご協力により参加者は110余名に達し、盛大に開催できました。

その報告と、合わせて実施したアンケート結果を生データのまま、ご紹介します。

【CPD実施紹介】

(1) テーマ：A部門・4技術動向

情報技術(IT)特集

(2) 開催日：平成14年10月26日(土)10~17時

(3) 場所：福岡市(福岡商工会議所)

(4) 参加費：3,000円

(5) 講師および研修内容

①田中卓史氏：福岡工業大学・情報工学科
主任教授・工博

(議題) IT革命の流れと展望

②三村信之氏：中小企業診断士(情報部門)

(議題) 中小企業のIT化

③濱田祐司氏：中小企業診断士(情報部門)

(議題) コンピューターウィルス

④諸岡壮一氏：福岡県商工連合会IT啓発事業者

(議題) 中小企業のIT化

【研修結果】

出席者からの声として幾つかを列記しますと、

- ・CPDに出席のため旅費がかさむので、今日のように集中的にお願いしたい。
- ・会社に勤務しながら、研修会や学会に参加しています。故に、土曜日、年数回の集中CPDは助かります。(早めに、日程だけでも知りたい)
- ・毎月1回以上、平日の午後に開催を希望します。
- ・本日の内容はよかった。常識として知っておかばならないもの。今後とも続けてほしい。
- ・もう少し、突っ込んだ応用的な話を聞きたかった。
- ・テーマ及び講師の選定は、会員の意向を聞き、CPD委員会での審議決定を期待したい。
- ・年間のCPD予定日と、題目を決めておくこと。それを見て、優先的に出席するようにする。
- ・会社に勤務しながらの50H/年は厳しい。東京では多く開催されているようだが、これらの受講は時間的、金銭的にも余裕が無い。福岡で100H/年程度は実施してほしい。
- ・東京に比べ、九州地区はCPDに限らず各種セミナーや講演会が少ない。技術士会でお世話できな

いでしょうか。

- ・テーマを一般と専門と半々で実施してほしい。
 - ・福岡と地方(熊本)との、交互開催を希望します。
- その他、いろいろなご意見(言いたいこと、身勝手なことを含む)があり、今後のCPDを考えた時、頭の中がクラクラしてきました。

【アンケート結果】

出席者にアンケートをお願いしましたが、回答者は83名(75.5%)で、その結果集約抜粋は別表の通りです。

【次回のCPD予告】

次回の集中研修は1月25日(土)に行います。皆様には、スケジュールを調整のうえ、多数の出席を希望します。(CPD:6単位)

- (1) テーマ:A部門、複数テーマで検討中
- (2) 開催日:平成15年1月25日(土)10~17時
- (3) 場 所:福岡市(福岡商工会議所)
- (4) 参加費:3,000円
- (5) 講師および研修内容は検討中
- (6) 申し込み:別途にご連絡します。

《H15年度の開催日は、4月26日、7月26日、10月25日、1月24日の何れも土曜日の予定です。》

【支部CPD委員会のお手伝いを!】

支部CPDは内山委員長のもとで運営しておりますが、今後を考えた時、CPD委員会の強化は必須です。このことを考え、今回、CPD委員会のメンバーを募集することになりました。

募集は福岡県を除く各県で1名と、福岡市または近郊で2名とします。九州支部にご連絡下さい。

また、募集に際しては、各県地区会長のご推薦を含め、ご理解とご協力をお願いします。

アンケート集約結果(回答者:83名)

年 齢	30代	40代	50代	60代	70以上
	3	13	20	30	17
資 格	技術士		技術士補	その他	
	83		0	0	
県 別	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分
	59	2	5	1	3
	宮崎	鹿児島		不明	
	5	4		4	
技術士会	本部会員		センター会員	未加入	
	52		24	3	
C P D			知っている	知らない	
	自体(目的)		82	1	
	50H/年		75	8	
	登録方法		46	37	
C P D 達成度	30H未満	50H未満	50以上	100H超	
	34	14	17	6	
AとBの比率	A>B	A=B	A<B	不明	
	33	10	25	15	
開催時期	毎月	6回/年	4回/年	2回/年	
	9	20	45	1	
開催曜日:複数	月~水	木~金	土曜日	日祭日	
	7	12	63	3	
開催時間	10~16	10~17	13~16	13~17	
	18	53	2	9	
C P D 会 費	3,000円	4,000円	5,000円	2,500円	
	67	1	4	10	
技術士会未加入者との会費差	同一で可:23				
	+1,000円:44				
	+2,000円:12				
1日のテーマと構成	同一で可		複数コード	2題	
	23		44	12	
連 絡 方 法	F A X		メール	両方	
	36		37	7	
パ ソ コ ン	持っている			持っていない	
	74			9	

注記:CPD開催時の希望題目と要望事項は割愛しました。

トピックス

経営革新に向けた

“金の卵”発掘を技術士に要請

去る11月1日午後、九州経済産業局山崎技術企画課長、同江森課長補佐が、当支部事務所にこられ、田中支部長、泉館と面談し、以下の要請が技術士会九州支部及び会員諸氏にありました。

わが国及び地域の経済産業の活性化に向け、経営革新につながる新たな技術、製品、サービス等とな

る“金の卵”を発掘し、提案願いたい。開発予算が必要な場合は、随時山崎課長が相談に応ずる。
参考資料:平成15年度概算要求における地域産業経済政策関連予算について、九州地域新規事業支援施策、九州産業技術センター、産学官連携関連予算一覧(支部保管)、他。

上記申し入れに対し、支部としては、本件は技術士の責務であり全面的に協力することとしました。会員諸氏には、奮って検討ください。支部業務開発委員会宛(支部事務所)ご連絡ください。

(九州支部副支部長 泉館 昭雄)

第8回西日本技術士研究・業績発表年次大会開催

10月18日(金)、19日(土)の両日、北九州市学術研究都市を大会会場として、平成14年度第8回西日本技術士研究・業績発表年次大会が滞りなく成功裏に開催された。なお本大会は、中・四国支部の了解を得て、平成14年度中・四国、九州支部合同研修会を兼ねて行われた。参加者は、大会参加者130名、見学会参加者54名であった。

見学会

18日の見学会は、最初に北九州学術研究都市を訪れた。大学キャンパスへの電気供給システムとして、太陽光を利用した太陽電池、化学反応を利用した燃料電池、ガスエンジン発電機の見学や、低環境負荷資源循環型居住システムの社会工学的実験研究として、部材の80%以上をリユース・リサイクルする実験住宅を見学した。

次いで北九州市の総合コンビナート・響リサイクル団地に移動して、テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコンの処理工場と、使用済み蛍光灯のリサイクル事業を見学した。

夜18時30分から、小倉駅近くのホテルで懇親会が開催された。参加者は65名であった。

大会

19日の大会は、前日の見学会コース、北九州学術研究都市の中核機関である、(財)北九州学術研究推進機構の産業学術センターで開催した。

9時受付開始・10時から甲斐忠義支部事業委員長の開会宣言に次いで、田中穰治九州支部長の開会の挨拶。つづいて(財)北九州学術研究推進機構、産業連携センター長山崎得司氏の学術研究都市の紹介があった。

次いで北九州市立大学国際環境工学部教授の浅岡佐知夫先生の記念講演が行われた。講演テーマは、「エネルギー環境制約下での発展のための環境学」であった。

午後は13時から産業連携センター研究室に、第1～第3分科会会場を設け、それぞれ7技術士の研究発表が行われ、各分科会とも予定どおりの発表が終

支部事業委員長 甲斐 忠義 (建設・福岡)

了した。

来年は、中・四国支部担当により、愛媛県松山市道後温泉で開催予定である。最後に大会の準備に協力いただいた北九州地区技術士会14名の先生方にお礼申し上げます。

(財)北九州学術推進機構 (FAIS)

今回の会場となった(財)北九州学術推進機構は、わが国初の試みであって、北九州市立大、九州工大、早稲田大、クランフィールド大など、国公私大学で複合構成され、北九州学術研究都市の連合大学群の研究成果であるシーズと、北九州地域の多様な産業のニーズを結びつけるプロモーターの役割を担い、産業技術の高度化、新産業の創出、活力ある中小企業ベンチャーの創出を目的としている。

このFAISは、産業連携センター、SOC設計センター、中小企業支援センター、キャンパス運営センターの4部門の組織で運営されている。

設立は、平成13年3月1日で、現在1期事業の121.4ヘクタールが完成し、本年から2期工事が着手されている。3期工事まで完成すると330ヘクタールの広大な大学関連施設、研究所、住宅、公園緑地が計画的に配置される。土地区画整理事業の事業主体は、都市基盤整備公団である。

この研究都市内に大学・企業の研究者のために住宅設備を完備している点に特徴がある。またこれらの研究を実践する場として、総合環境コンビナート・響難リサイクル団地(北九州エコタウン地区)がある。各種産業廃棄物リサイクル企業が稼働している。実証研究エリアでは資源循環型経済社会に向けて研究開発に取り組んでいる。

昭和30年代公害の象徴とされた北九州市は、公害のない美しいまちによみがえり、さらにこれからの循環型社会到来に対応して、新技術、新産業の創出に力強く取り組んでおり、世界中から多くの技術者が訪れている。

このような中に、(社)日本技術士会九州支部北九州地区会員の技術集団があり、活躍している。ますます頑張りたい。

感謝・感激・感動の旅

— 第29回技術士全国大会に参加して —

平岡 輝夫 (建設・北九州)

平成14年9月23日、全日空福岡→名古屋、30有余年振り。名古屋の高層ビル建築には流石に驚かされた。

岐阜に泊るのは初めてである。予約しておいたウエルサンピア岐阜に投宿。岐阜はマムシの道三が油売りに来て美濃国の乗っ取りに成功したところ、ど偉いモッコスの血を引いた県民と思ひ恐る恐る道を尋ねたが、案に相違して親切丁寧案内して下さったお嬢さんに、心より感謝!

翌24日、長良川国際会議場に出動。受付でマゴマゴしていると背中をポンと叩く人があった。誰かなーと思ってみると北海道支部長の青木 弘先生と齊藤有司先生であった。

齊藤先生とは不思議なご縁で、平成9年福岡の全国大会で一緒になってから、翌年の新潟佐渡島で意気投合致し、その後、毎年「七夕」のように必ず一度お逢い致している。

バスは各務原よりひるがの高原を経て左右にスキー場と白山連峰を眺め、日本一美しい村、世界遺産・白川郷に入る。ホウバ定食に舌鼓を打つ。ユネスコの世界文化遺産に登録された荻町合掌集落には、今もなお114棟もの合掌造家屋が立ち並んでいる。

日本の原風景が広がる白川郷! 白川郷の合掌造り集落で最大規模を誇る和田家住宅。江戸時代中期の建築と伝えられている。丁度「ドブクロ」祭りが行われて居り、その試飲は快哉!!

国道156号線を走って行くと中野展望台に着く。そこに聳えている2本の老桜。樹齢450年以上にもなるというアズマヒガンザクラで、しょうかわざくら 莊川桜とよばれている。

当時空前の電力危機を乗り越えるため、昭和27年に電源開発促進法案が国会に上程され成立。ロックフィル式ダムとしては東洋一と言われた「御母衣ダム」が建設された。湖底に沈む運命であったが、この地を訪れた電力会社初代総裁高碓達之助氏が、重さ40トンものこの老桜を200mも引き上げて移植した。

「進歩の名のもとに、古き姿は次第に失われてい

く。だが、人力で救えるかぎりのものは、なんとかして残していきたい。古きものは、古きが故に尊い」初代総裁高碓先生のこの言葉の精神は、現在の私たちの心の中に脈々として、生きている。

25日は本番! 「磨こう先端の技・伝えよう匠の心」大会式典・記念パーティの後、待望の長良川の鶺鴒に参加。美濃における鶺鴒の歴史は、702年に始まってから1,300年以上の歴史がある。明治時代以降は観光と結びつくことで途絶えることなく現在まで受け継がれている。

研修旅行は「下呂温泉コース」を選んだ。前夜は長良川の鶺鴒で興奮し寝れぬ一夜を明かしたが、元氣一杯旅に出る。先ず馬籠・妻籠に行き藤村記念館を訪ねる。

かつて紅顔の美少年?であったその昔、藤村詩集に胸焦がしたことなど思い起し、藤村が初恋で“まだあげ初めし前髪の 林檎のもとに見えしとき 前にさして花ぐしの 花ある君と思ひけり”下呂温泉で「小諸なる古城のほとり」を吟じ得たことに深く感謝を捧げる。

最終日は高山陣屋にてNHK連続テレビドラマ「さくら」をイメージし、郡上八幡を尋ね、心おきなく幕を閉じた!

岐阜市収入役・山田多聞先生より「岐阜の輝念品」を戴いた。大変珍しいもので我家の家宝として子々孫々に至るまで語り継ぎましょう!! 又お手紙に岐阜の紅葉が一葉入っていました。心にくいまでの仕草に感激感動!!

我が大先輩古賀豊吉先生、並に技術のご指導を賜って居ります水上信照先生と今回も一緒さして戴き、心強く頼もしいお方に付き添われて、思い出多い小旅行が出来たと感謝!!

秋が深まって参りましたが、どうぞ“心に光”をつけて、健体康心で、明るく爽やかに笑顔で澆刺人生を送るべく顔晴っています。

感謝合笑

平成14年晩秋

部会報告

第二部会研修会

入札・契約制度の 最近の動向

第二部会長 長野 紘一（建設・福岡）

去る8月1日、第2部会の研修会をCPD委員会と共催で開催致しました。

開催日時：平成14年8月1日 10時～12時

研修課題：入札・契約制度の最近の動向

講師：菊川 滋（福岡県土木部長）

菊川講師は昭和52年建設省に入省し、平成5年には大臣官房技術調査室建設技術調査官として、入札・契約制度、事業執行システムの改革を担当し、今日の入札・契約制度の確立に尽力されました。

会場：博多パークホテル（福岡市）

参加者：236名

研修内容：レジメ及び資料参照

- ①公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律について
- ②多様な入札制度の導入
- ③情報公開
- ④企業評価の改善
- ⑤建設CALSと電子入札の導入
- ⑥監督検査の充実
- ⑦施工体制の適正化
- ⑧発注者支援
- ⑨コスト縮減

説明の中、次のことが印象に残りました。

- ・公共事業調達法が必要な時代にきている。
 - ・わが国の発注者と受注者はOBを介して、人的つながりが強すぎると海外からクレームが付いている。
 - ・経営事項審査の課題は入札ボンドの導入であり、これにより民間での経営審査が可能となるのではないか。
 - ・発注者毎にバラバラである工事成績評定に対して、統一したルールが必要である。
 - ・入札予定価格を公表することにより、積算を民間で行うことが可能となる。
- また、講師の個人的見解も含めた公共事業に対す

るこれからの課題として、次のことを指摘されました。

- ・わが国は今迄人類が経験したことのないような、人口減少期に突入していることを十分認識する必要がある。（投資可能期間など）
- ・従来の「均衡ある国土発展」という国土形成論に代わる新たな理念をつくり、国民で共有する必要がある。
- ・公共事業に対する新たな「負担と整備手法」を考える時にきている。
例えば、利用者負担にするのか、税にするのか。世代間の負担はどうあるべきか、国と地方とのあるべき姿はどのように考えればよいのか。等々。
- ・舗装率とか道路改良率に代わる社会資本に求められるサービスの質を、例えば、渋滞の程度やバリアフリーの状態など、国民のニーズに沿ったものにする必要がある。
- ・出来あがった公共財産を積極的に国民にPRする手法を整備する必要がある。

おわりに

公共事業に携わる者にとって「入札・契約制度」は憲法ともいえるべきものであり、これを遵守していくことは、国民に対する責務であると考え今回の研修に取り上げました。

本研修には技術士会にとどまらず、思いを同じくしている(社)建設コンサルタンツ協会九州支部、(社)福岡県土木組合連合会、福岡県土木親和会も共催して頂きました。

お陰様で多数の方々に出席して頂き、成功裏に研修を終えることが出来ました。

・お願い

ご存知の通り第二部会は会員数が多く、お互いの意志の疎通を図ることがままならず申しわけなく思っております。

今後の部会の運営に際しましての（研修会なども含めて）御意見を下記宛連絡下さい。

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目2番11号

富士ビル赤坂

(株)富士ピー・エス 長野紘一

TEL 092-721-3468 FAX 092-732-9096

第四部会技術研修見学会

「メディアドームの 地下にあるもの」

第四部会幹事 松田 研志 (水道・福岡)

1. はじめに

皆さん「北九州メディアドーム(旧小倉競輪場)」の地下に何があるかご存じでしょうか。

むかし、「土俵の下に金が埋もれている」といった人がいましたが、メディアドームの地下には、「浸水を防ぎ、河川の水質汚濁を防ぐ仕掛け(ポンプ場と雨水滞水池)」があります。

第4部会では、9月20日(金)に、北九州市神嶽ポンプ場・神嶽雨水滞水池と、北九州市水環境館の技術研修見学会を行いました。

下水道分野では、最近『合流式下水道の改善』が非常に注目されており、国も重点事業の1つとして位置づけています。そういった施設を既に建設し、供用しているという意味では、北九州市は下水道の先進都市であるといえます。

以下に見学会の概要を報告します。

2. 神嶽ポンプ場・雨水滞水池

合流式下水道からの放流負荷量を分流式下水道と同程度に改善する目的でメディアドームの地下に4,600m³の雨水滞水池が設置されました。

この施設は平成11年度に運転を開始していますが、計画どおりの効果を発揮していることが確認されています。

合流式下水道では、雨天時の初期に高濃度の越流水が発生しますが、雨水滞水池はこの越流水を貯留し、降雨終了後に下水処理場で処理するものです。この施設により、越流先の神嶽川、その下流の紫川、関門海峡の水質が改善されます。

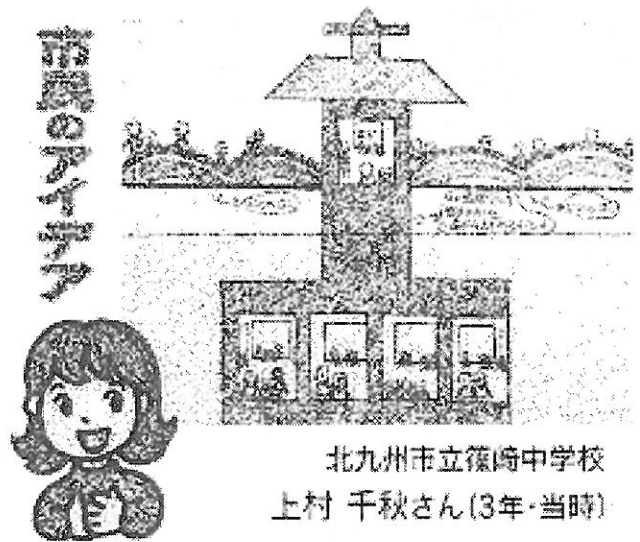
3. 水環境館

神嶽ポンプ場・雨水滞水池の下流の紫川河畔(市役所横)に、紫川の水の中を観察できる水環境館があります。汽水域にあるので、川の中の様々な変化や多様な生物が見学できます。また、紫川の情報が集積されており、川に住む魚類の水槽が多数あるので川の学習と生態観察ができます。

当時の中学生のアイデアやアユ博士からの提案がもとになっているそうです。



北九州メディアドーム



北九州市立篠崎中学校
上村 千秋さん(3年・当時)

水環境館はだれでも見学できますので、川に関心がある方は一度見学されることをお奨めします。

4. おわりに

下水道分野で注目されている合流式下水道改善施設(雨水滞水池)と、紫川の水の中を観察できる水環境館を見学でき、非常に有意義な見学会でした。見学施設のご案内、ご説明をいただいた北九州市建設局の皆様にご心より御礼申し上げます。ただし、見学会のPR不足もあり、参加者が5名と少なかったことが残念でした。

第三部会技術講演会

科学技術の役割を想う

第三部会長 和田 洋二 (金属・北九州)

一向に出口の見えない景気の閉塞感の中で、日本人のノーベル賞受賞者が一度に二人も生まれたこと

は、久々に感動を覚える明るいニュースでした。

わたしは、先日、北九州学術研究都市で行われた「21世紀の創造」というノーベル賞受賞者をパネリストとするフォーラムに出席する機会があり、世界の知性とも言うべき科学者の肉声を聞くことができました。が、そのことは後ほど述べさせていただくとして、第三部会の活動報告をまず行います。

H14年10月12日、第三部会第二回技術講演会を開催し、以下に述べる二件の講演がおこなわれました。

(1) ガラス短繊維の製造方法の開発

(化学・総合技術監理部門 大里信義 氏)

ガラス短繊維に要求される性質は、突き詰めれば細く、長く、丈夫ということであるとのこと。また、ガラス短繊維の製造方法の変遷について、講演者が直接携わり苦労して開発した製造技術を含めて詳しく解説された。一方で、講演者がかつて勤めていた企業は、その後の経営環境の変化からその事業から撤退したため、現在では他の産業分野で、開発した技術が活かされているとの話は、技術のあり方の難しさを改めて考えさせられるところがあった。

(2) 微生物を活用した有機農業

(化学部門 里一男 氏)

講演者が若き企業技術者時代に技術士資格を取得し、「これで未来はバラ色」と思い込んだことから波乱の人生が始まった、との示唆に富む体験談を率直に話され、現役の企業内技術士のみなさんにお聞かせしたい内容であった。

現在は、別のある企業で、土壌改良のための微生物の研究開発などに携わっておられ、産学官共同研究・開発が商品化として実を結んだものもあるとのことだった。すでに商品化された微生物としてエヌケー52菌があり、さらに、生命・地球環境にやさしいB T菌を活用した生物的防虫剤の研究開発にも取り組んでおられる。

さて、冒頭で触れたフォーラムの話に戻らせていただきます。

パネリストは、ノーベル化学賞を1986年に受賞した李遠哲氏(台湾/中央研究院長)、1987年の生理学医学賞の利根川教授、そして、昨年の化学賞の野依教授、さらに北九州市立大学副学長の国武豊喜氏、司会はあの山根一真さんというそうそうたる顔ぶれでした。

紙面の都合で詳細には触れませんが、各々の方々の見地から講演があり、その後ディスカッションが

行われました。それぞれに興味深い話ばかりでしたが、中でも李氏の話を紹介します。

氏は、基調講演の締めくくりとして、21世紀の人類発展のために何が重要かということについて以下のように述べられた。

①環境/地球温暖化問題の解決、②石油・天然ガスなど化石燃料の枯渇対策、③文明の衝突の回避が大きな課題である。

悲観的材料は数多くあるが、人類は必ずこれらを克服できると信じ、共存・共栄を目指すべきである。そのためには、科学技術の発展と、これをより多くの世界の人々が享受できるようにすることこそがわれわれに課された使命であるとのことでした。

第一部会技術研修会 (平成14年度)

講演 2 題

第一部会長 野見山 益生 (機械・福岡)

平成14年10月26日実施、出席16名。

簡易LCA計算とその適用例に就いての一考察

技術士(機械・長崎) 本田圭助先生

簡易LCAの計算の背景としての狙いは、現在の大量生産、大量流通、大量消費、大量廃棄の市場経済を見直し、環境負荷を低減し、且つ持続可能な社会を構築することであり、原材料から製造組立、流通使用、そして廃棄に至る全ライフサイクルの各ステージで、環境負荷を分析し、その環境に対する影響を評価することにある。

またグリーン購入法の制定と相俟って、国際的な整合性を踏まえた適切な情報としての環境ラベル(ISO14020シリーズ)で規定され、環境負荷のインベントリーデータを消費者に提供している。

LCAの定義は、製品等が環境や資源に与える負荷をその全生涯、所謂「ゆりかごから墓場まで」に亘って定量的に評価する方法である。フレームワークとしては、目的と範囲の明確化、インベントリー分析、影響評価、結果の解釈で、評価の結果と最初に設定した改善目標との比較を行う。

今回実施した簡易LCAの分析は、長崎県佐世保市のテーマパーク、ハウステンボス内にある自然環境と都市環境の共存をコンセプトとし、街づくりを目

的とした中水の再利用、運河の水質保全、及び海水の淡水化の三点から、水環境の保全と水資源の有効利用を目指したシステムの中の、3次処理システムの活性汚泥処理後の接触酸化処理から限外域濾過処理を対象とし分析を行った。インベントリー分析で使用した原単位は、複数の環境負荷項目を取り扱っている八千代エンジニアリングの原単位を使用した。

次いで排水処理システムの物量は、建設時に使用された資材及び機器の数量、また供用時のエネルギー及び薬品は、現在までの年平均使用量に30年を乗じ、廃棄時の物量は建設時と同様としている。

分析結果は建設では10～25%、供用時で65～90%、廃棄時では5～10%となっている。

LCAの分析手法は製品の技術革新の設計手法に取り入れ初期評価の後、総合評価を行い最終決断の為に必要なもので、今後各方面に定着し活用されることが望ましい。

製鐵電気設備の進歩について

技術士（電気電子・北九州）長崎治夫先生

昭和30年後半から昭和60年前半にかけて、製鐵電気設備の変遷、進歩について説明がなされた。

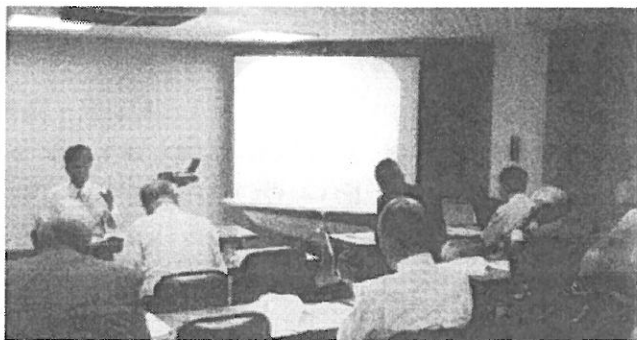
この時期の鉄鋼業界は、世界銀行等の融資を受け本格的な近代化投資で設備の増強が進められた。更には臨海製鉄所が次々と建設され、日本の鉄鋼業界が品質、生産量において、事実上世界最高水準に達した時期であった。

例えば冷間・熱間圧延機の主機・補機は直流分巻電動機式ワードレオナード制御から、米国式の自動

板厚制御装置として、直流電動機、MGセット制御用アンプリダイン、X線厚み計等が次々と輸入されてきた。

電気設備の計画・設計にあたって基本的には国産化、静止化、交流化、デジタル化、高機能化、省エネルギーを実現することであった。国産化は米国電気メーカをベースに国産化が進歩していった。静止化は発電機、励磁機等の回転機をサイリスタ装置等の静止機器に置き換えたことである。交流化は製造台数の増加に伴いメーカのコストダウンにより、またベクトル制御が実用化したことで普及していった。デジタル化は制御精度向上のニーズが高まりデジタル化が進められ、最初はマイクロプロセッサを用いたタンデム冷延ミルの速度制御への応用であったが加速低速運転時の厚板精度向上に繋がった。高機能化は自動化制御の高度化より始まり輸入機の制御系解析、それに基づいた機器調整が進められた。

激しくなる国際競争の中で基盤産業としての発展を期待している。



第一部会研修会

◆まちづくりに関する提案の募集◆

わたし達が住むこのまちが、こんなだったらもっと楽しく、暮らしやすくなる。というあなたの夢やアイデアを文章や絵にして、より良いまちづくりに役立てようと、まちづくりに関する自由な発想や、個性的なアイデアを広く募集しています。ふるってご応募下さい!!

主催：(社)建設コンサルタンツ九州支部

後援：国土交通省 九州地方整備局

(社)日本技術士会九州支部

テーマ：九州・沖縄のまちづくりに関するものであれば、タイトルは自由です。

応募資格：個人、家族やグループ、法人など、どなたでも応募可能です。

応募条件：応募内容は未発表のものとしませんが、校内や企業内及び地域内で発表されたもの（全県的に発表されていないもの）については応募できます。

応募体裁：400字詰め原稿用紙6枚以内、イラストや図表の添付も可能です。イメージイラスト（絵）での応募には、主旨及びイラストの説明を附記して下さい。サイズは四つ切り（38cm×54cm）または八つ切り（38cm×27cm）に準じる大きさ。

締切日：平成15年2月28日(金)

（審査の結果、優秀作品には賞を進呈します）

送付先：夢・アイデア委員会事務局

〒812-0013 福岡市博多区博多駅前1丁目13-9

住友生命博多駅前ビル8階

(社)建設コンサルタンツ協会九州支部

(TEL：092-434-4340 FAX：092-434-4342)

新発足の九州支部 I T 推進委員会について

－アンケートのご解答をお願いします－

I T 推進委員長 大里 信義（総合技術監理、化学・北九州）

今日、I T 化はすでに世界的に大きな潮流になっております。企業を始めいろんな組織においても、個人においても日常生活の隅々まで、大きなスピードでその普及が進みつつあります。『デジタルデバイス』という言葉が示すように I T を道具としてうまく使用できるかどうか、組織や個人においての知的、物質的なレベルの形成に大きく影響するようになってきました。

技術士会はもっとも高度な技術レベルの人の集団であり、I T 化も他の組織に比較しても先頭にたって進めているのが当然と思われませんが、技術士会の内部では、残念ながらあまり I T 化が進んでいないという認識がなされております。個々のメンバーの中には高度に I T を駆使している方もたくさんおられますが、組織として考えた技術士会は残念ながら進んでいるとはいえない状況であるということです。

このような認識のもとに、このたび支部執行部の決議で当支部の I T 化をより強力に推進していこうということで、『I T 推進委員会』を発足させることが決まり、アドバイザーグループも含めて15名の推進委員が支部長より任命されました。

次のようなメンバーです。（敬称略）

委員長 大里信義（北九州・化学）

アドバイザーグループ

田中穰治（福岡・経営工学・支部長）、池田義実（福岡・建設・総務委員長）、完戸鶴（福岡・農業・広報委員長）

メンバーグループ

久富浩明（福岡・情報）、坂田一則（北九州・金属）、堤茂徳（佐賀・建設）、永田至孝（長崎・電気電子）、青山次則（熊本・建設）、梶原宏一郎（大分・情報）、太田義信（宮崎・建設）、浦島和衛（鹿児島・情報）

アドバイジングメンバーグループ

木下茂広（北九州・建設・技術士センター副会長）、畠中新二郎（福岡・情報）、向江宗利（福岡・経営工学）

早速、去る9月28日に初会合を開いて、田中支部

長の挨拶、発足までの経緯説明を受け、打合せをしました。その結果、

(1) I T 化推進の目標を『技術士が I T を活用して本来業務の遂行を迅速円滑に行えるようにすること』とする。

(2) このため推進委員会は支部業務の I T 化推進と支部メンバーの I T レベルアップ支援業務を進める。

(3) そのステップは、

第1ステップで、殆どの会員が P C を保有し、インターネットに接続してメールの交換が出来るようにする。（H15年9月まで）

第2ステップで、会員への連絡はファックスからメールとし、講演会への出欠の返事などもメールで行うことが出来るようにする。（H16年3月まで）

第3ステップで、「技術士だより」をメールマガジンの形で行い、業務委員会における業務の募集、応募、決定をメールで行う。（H16年9月まで）

第4ステップで、支部発受信情報、会員個々の専門分野、業績、論文等をデータベース化し、会員がパスワードで検索できるようにする。また会員相互の共同作業、レポート作成等をメールの交換で行う。

但し第4ステップはかなり高度で、セキュリティの問題などもあり、特に期限は設けず、最終そままでの到達を念頭におく程度とする。

(4) 進めるに当たっては、会員のレベルアップが必要で、その方法については別途考える。

(5) 推進委員会の運営は委員長一委員のフラット組織とし全員が企画と運営に当たる。

ということになりました。

I T 化は全員参加で進めなければ効果があがりません。

最初の仕事として、今回、支部会員のメールアドレスと意識を調査し、今後の方向付けに生かすべく、**全員対象のアンケート調査**を行うことにいたしました。御面倒をおかけしますが、何とぞよろしくご協力のほどお願いいたします。

I

雑 感

竹内 良治（総合技術監理・建設・水道
・衛生工学・北九州）

新聞時評で1年先を予見するなら、過去10年を、100年先なら過去1000年の歴史を評価しなければ、まともな予見はできない。この言葉が頭の中に澱のように沈着した。

今春、「九州技報」7月号に、「平成13年度技術士試験を省みて」という稿に、建設環境の選択問題の解答例を書く機会を得た。問題は「建設部門における地球温暖化対策」を選択した。通り一遍のことに加えて、日頃から考えていることを恐る恐る書いた。それは「土木計画学の見直し」である。その概要を述べる。

「我が国の人口動態は2006年から減少していくことが明らかとなっている。長期的な人口減少傾向は縄文晩期（30万人→7万人）以来の大事と捉えるべきである。しかし、未だ多くの事業種で表記の課題は右肩上がりとなっている。人口減という社会要因にあわせた右肩下がりの計画学を確立する必要がある。」

もちろん、模範とする解答は『したがって今後とも、一層の社会資本整備を進めるべきである。』としなければ合格点ももらえないことは十分承知している。建設部門の大先輩から雷が落ちてくるのではないかと、びくびくしていた。

ところが、土木学会誌8月号に水道界の大御所、第89代土木学会会長である丹保憲仁先生の記念講演が掲載されていた。「土木工学から環境土木工学へ」と題し、まず、土木の語源である『淮南子』（紀元前二世紀）の「築土構木」から遡って、人口をキーワードに百年後の日本のあり方を提案するものである。

17世紀、近代西洋科学の勃興とともに人口は増加を始めた。地球をクローズド系と考え、2100年に100億人の飽和に向かって、ロジスティックカーブを描いて増加している。現在の地球は60億人でちょ

うど60%あたりになる。

一方、我が国は1900年に7000万人が2000年に12600万人となり、2100年に再び7000万人に戻る。しかし、我が国は、4000万人しかグリーンに生きていけない（江戸+蝦夷）。余りの3000万人は大都市圏で世界を相手に嫁ぐ。グリーンな4000万人は流域単位に小都市、生産緑地（田畑）森林（環境）の自立圏（し尿循環）を提案している。

まだ人口増加を続けているアメリカ、中国と対等に互していくには、流域圏で「近代」でない次の新しい時代にステップインした世界最初の文明を創造するべきだ、と主張されている。

さらに、北海道出身、北大総長、土木学会会長である先生が、北海道に高速道路は不要で、都心の渋滞解消が優先するとしている。

先生は、人口激減を容認しているが、私は何としても緩和したい。地球上の人間増殖も、シャレの中の細菌培養も同様なロジスティックカーブ描き、ピークに達した後、緩やかな減衰カーブを描くのが自然である。

不況、デフレと騒いでいるが、経済指標の中に人口動態があまり加味されていない。それは、戦後の一方的な増加（右肩上がり）が空気のようなためである。しかし、団塊世代が厄除けを迎えた時も現在も同じ住宅着工件数で論じるのは無理であろう。指標には分母を常に考慮する必要がある。

ここ十年、自動車の国内需要がもったのも、一家に一台から一人一台という社会変化があったためである。これからの自動車需要は買い換えと新規免許取得者マイナス死亡者に近づいていく。後者はすぐにマイナスになる。

人口停滞気味でもこの有様であり、人口激減は1970年大阪万博の逆で、考えられる状況よりはるかな悲惨な社会となる可能性が高い。

建設国債は社会資本が残るが、赤字国債はどぶに捨てるようなものだといった議員がいたが、維持費も稼げない非効率な社会資本より、特殊出生率を1.3から1.8に上げるための赤字国債の方がはるかに有効ではないか。

「近代」後の世界最初の文明とはケンペルやシーボルトの見た江戸文明に近いものであろう。

Ⅱ

小さなメダカ池（ビオトープ）

が私の学び場

中村 秀樹（建設・熊本）

●メダカ池づくりのきっかけ

私は建設コンサルタントに身をおく者の一人です。これまでの仕事は防災計画等のハード対策が多く、環境に関することといえば、特に自然豊かな田舎で育った以外に、「環境計画には何が大切なのか」という基本的なことを知らないままに、「環境に配慮した設計」とは口先ばかりの仕事をやってきました。つまり、一般人（地域住民）に比べると環境との係わりが多い割には、「人間から見た感覚で環境の設計をやっているのではないか？」といった実に寂しいものがありました。

そのような時、近所の下水道整備後の水質浄化で綺麗になった水路でホタルが飛交う姿を見た二十歳の若者が感動する姿を見て、私有地の空地とその横にある水路から水を引き込んで小さなメダカ池を作ってみようと考えたのが平成12年の4月でした。

●1年目のメダカ池づくり

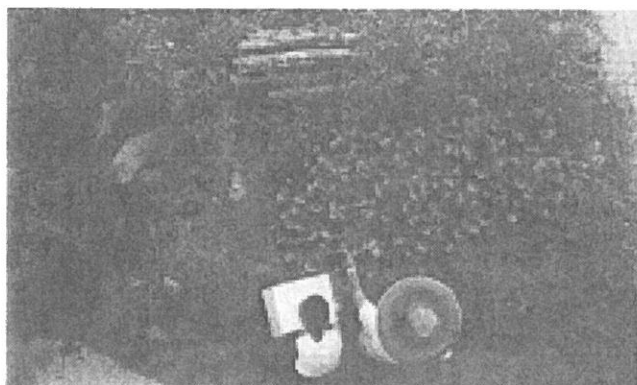
まず、メダカ池は、深さを約50cmに掘り込み、水が浸透しないように古テントで覆い、池の周囲に残土を盛土し、その上に田んぼの畦に生えている草を張りつけました。池への水の取水と排水方法は、杉板で堰をして塩化ビニール管で水を引き込むという循環型の簡単な構造としました。

メダカ池が出来上がったら池に水を溜めたくするのが人間の心理で、早速、メダカ池に水路から水を引き込むことにしました。10年ぶりにサラサラと音を立てながら池に流れ込む水を見て「何とも言えない感動」を覚えたのは私だけではありませんでした。ただ、この生きた水を利用して作った畳二帖程のメダカ池に、どんな生物が住みつつか、水環境の知識に乏しい私には期待と不安で一杯でした。

次の朝、澄んだ水路の川底にカワニナの姿を発見しました。このカワニナは驚いたことに一晩で約30m上流から移動して来ているではありませんか。この瞬間、メダカ池にどんな生物が住みつつかの不安から期待へと気持ちは一転しました。この出来事で10年間全く使用していない枯水路に水を流すだけで生物たちが生きる場所を求めて移動することを知り

ました。善は急げで、友人から分けてもらった大津町産の黒メダカ30匹と、江津湖のホテイアオイ5株とアメンボウ10匹を放したのがメダカ池（ビオトープ）観察のスタートでした。

メダカ池が完成した3ヶ月後の8月のメダカ池は、下の写真のような水と緑に覆われ、シオカラトンボ、タニシ、カワニナ、アメンボウ、カエル、ヤマトシジミ等の様々な生物が住みつくようになりました。



●2年目のメダカ池への訪問者

2年目の夏には、水路に体長40cm程の野鯉が訪れたり、越冬した親メダカの子供達が沢山泳ぎ回るようになり、さらに6月には2～3頭のホタルを水路で見れるようになりました。

●3年目のメダカ池の新たな発見

三年目の今年の夏には、その年に生まれたメダカの子供達が池から脱走して、近くの水路や田んぼの水口で泳ぐ姿を数多く見かけるようになりました。しかし不思議なことに、この水口へ移動するメダカは、池から30m上流の3面張水路まで遡上して、そこから下流へ下る経路と、池から下流へ30m下り、そこから上流へ遡上して水口へ行き着く2つの経路しかありません。いずれも水口へ行き着くには流速の早い水路をメダカが移動するには困難、と思える私の感覚でした。体長2cm足らずの小さなメダカが田んぼの水口で現実に泳いでいるし、他に放流したという話も聞かない。ここで、メダカは水循環が遅い場所より、さらに水循環が早い場所を好み移動する習性があることを初めて知り得ました。

●メダカ池から学んだこと

メダカ池の観察で気づいたことは、人間が考える環境と生き物たちが作り出す環境とでは明らかに大きな違いがあることが解りました。つまり、「生きた水循環があれば、人間が手を加える必要はなく、あくまでも自然な水循環に任せた方が生物にとって、住み良い環境」であることを学びました。

地域活動

福岡

福岡シニア技術士ネットワーク (旧MCE福岡) について

MCE運営委員長 真鍋 和義 (水道)

福岡地区には50歳未満のグループとして、YCE福岡がありました。が、50歳才を過ぎますとそういう受け皿のグループが無く、寂しい思いがありました。そこでYCE福岡のOB的グループとして50歳代の技術士で構成する任意のサロンのグループを作ろうと、平成12年7月22日にMCE福岡 (Middle Consulting Engineers 福岡) として発足し、2年が経過しました。会員の構成は満年齢が50歳代の福岡地区および近郊に勤務または在住する技術士としていましたが、現在は60歳代の方も交えて定例会を行っており、会員数は名簿上は約30名まで増加しています。

定例会は2カ月に1回、原則として偶数月の木曜日に開催しております。当初天神1丁目にあります、福岡市赤煉瓦文化館にて行っていたが、出席者

が多くても十数名であったので、今年の2月定例会から、九州支部の部屋を借りて開いております。例会の内容はYCE福岡と同様に次のような構成にしています。

1分間スピーチ、業歴を主体としたノウフウ (KNOW WHO)、テーマを決めて会員による発表、又は外部講師による講演とし (ホットな話題)、CPDの対象となる内容としています。最近の例会における「ホットな話題」の発表テーマは次の通りです。

4月例会「CPDについて」、6月例会「諫早湾干拓について」、8月例会「汚泥のコンポスト化装置開発」、10月例会「レジオネラ症とその防止対策」

なお、「技術士」の英訳が「Consulting Engineer」から「Professional Engineer」に変更されたことを受け、先輩格の「YCE福岡」が「福岡青年技術士ネットワーク」と名称を変更されたので、我々も同様に今年6月に「福岡シニア技術士ネットワーク (Fukuoka Senior Professional Engineers Network)」と名称を変更いたしました。

鹿児島

上期活動状況

代表幹事 稲田 博 (建設)

今年度当初計画に基づき、比較的順調な活動が展開されております。

①会員動向

会員数は毎年増加の傾向にあります。支部・センター所属数や地区活動への参加者数と比例しない悩みがあります。

- ・所属会員：180名 (技術士144、技術士補36)
- ・技術士登録者数：鹿児島県157名 (平成13年度)
- ・支部・センター会員：79名 (平成13年度)

②会員名簿

今年度も1500部作成し、9月末までに官公庁関係部所に役員が訪問配布、PRしました。

③地区主催CPD研修会 (毎月第2土曜日14時～)

会員を講師としての研修会は毎月30名前後の参加を得て継続しており、いま次年度の講師を調整中で

す。

- ①4月 かごしま「シラス百景」(稲田 博;建設)
- ②6月 地方下水道事業の課題(坂ノ上孝雄;水道)
- ③7月 環境規制物質と測定技術(里 俊一;環境)
- ④8月 鹿児島の地質と斜面崩壊(竹元幹生;応理)
- ⑤9月 コンクリート技術の動向(中原 康;建設)
- ⑥10月 鹿児島のシラス地盤特性(田中義人;建設)
- ⑦11月 魚道の計画・設計・施工(田ノ上春雄;農業)

④青年部技術講習会

青年部会主催の部外から講師を招いての講習会は下記のとおり実施されます。

- ①5月 行政の情報政策；鹿児島県庁情報政策課
- ②12月 食の安全性と環境；鹿児島大農学部教授
- ③11月 現地研修：上野原縄文の生活環境に学ぶ

⑤災害時情報提供活動グループ

検討委員会 (代表：中山義雄；応理) を立ちあげ、来年度には予算化し活動を開始する予定です。

⑥親睦会

- 懇親会 (総会時60名 忘年会40名前後参加)
- ゴルフ同好会 (春・秋の2回, 15名前後参加)

大分

会員増加と今後の課題

代表幹事 吉良 文至 (建設)

昨今のテレビ、新聞といえば、拉致家族の問題なしではニュースでないかのようですが、そっとしてあげたいと言う心ずかいとは、裏腹な日々のなかで、田中耕一さんのノーベル化学賞受賞は、何度見ても聞いても技術者の鏡のように感じ、一言一言かみ締め頼もしい限りです。

さて、大分県協会の事業計画に会員増強を目標にあげています。平成14年に大分県庁土木部、農政部の技術者が奮起して多くの方が合格者しました。この方々へのお誘いと、会社関係者のご協力で10名の増員が出来ました。新規会員の方々に敬意を申し上げます。

さらに、平成14年度の第二次試験に農政部の技術者5名が筆記試験に合格と聞いていますので、今後行政の担当者として技術士の活躍が期待されますと共に、地域活動に活力とご協力を御願ひする次第であります。

次に、大分県協会としてグループ活動をさらに活性化するべく取り組みが求められています。NPO法人も念頭に思案していますが、進展はまいちと言う状況であります。ましてや不況の最中で企業からの支援など期待できませんが、ボランティアの名のもとで活性化を模索し、その実現に努めたいと考えています。

お知らせ

長年地域活動にご指導下さっています名誉顧問：児玉源一郎さんの奥様が9月30日ご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

佐賀

NPO法人技術交流フォーラムの活動

広報委員 島内 明 (建設)

NPO法人技術交流フォーラム活動は、CPD研修、技術者教育、まちづくり、災害救援および技術交流に分かれており、主な内容は次の通りです。

技術士CPD研修会 県内技術士にCPD学習の一環として活用していただく為に、佐賀大学理工学部都市工学科4F会議室において、月1回、第2あるいは第4土曜にCE塾と同時開催しています。

技術者教育 CE塾では、技術士第一次と第二次試験講座を開講しました。第一次試験受講生と第二次の受講生は各6名でした。試験1ヵ月前に模擬試験を行い無事に閉講する事が出来ました。今はどの位の合格者ができるのか楽しみにしているところです。問題点は開講2回目の第一次試験講座を、今後どのような形で行っていくかです。来年は、第一次試験受講生が増加することが予想されます。講座内容は、基礎、適性及び専門科目に分かれます。基礎科目は大学教養程度で、建設系学生、技術者では対応でき

ないDNA等に関する出題もあります。専門科目は11分野(土質～建設環境)です。建設部門は勿論、他の分野の技術士グループによる共同作業が必要となってきました。このような問題点をふまえて、現在11月段階で講座計画を練っているところです。

県内若手技術者を育成する目的で、佐賀県測量設計協会講習会を、今年4月から8回開講しました。受講生は毎回30名程度です。

まちづくり 長崎市の四郎島・神ノ島の歴史的調査を、我々NPOは中立の立場で、地権者と長崎市の間に入って活動を続け、現在、史跡調査前の測量準備として伐採に入る段階です。

11月17日(日曜日)に佐賀県白石町の縫ノ池で、地元住民グループ縫ノ池湧水会と共に湧水回復をお祝いして茶会を開き、紅葉を楽しみながら野だてを楽しみました。

また“自転車で出かけた佐賀市”を目指している佐賀市のワークショップにNPOとして参加し、自転車を楽しむ、安全、便利などのキーワードで夢を語り合う事から始めています。

災害救援 NPOとして、佐賀県に災害救援活動実施要綱(案)を提出しました。

技術交流 科学技術等に関する最近の話題に関して

提言論議し、次世代の人材育成を推進する目的で、技術懇話会を佐賀県武雄市「県立宇宙科学館」で11月30日に行いました。

講演「佐賀の自然：佐賀でしか守れないもの」

佐賀県立 宇宙科学館 田島 正敏 先生
講演「武雄のまちづくりについて」

佐賀県 武雄市市長 古庄 健介 先生
講演と報告「縫ノ池に関する活動」大串 正
「四郎島・神ノ島に関する活動」原田 彰

「NPO法人技術交流フォーラム」ホームページ
[http:// www. gi- fo. com](http://www.gi-fo.com)

投 稿

技術士に求めるのは「総合能力」

しょう 鐘 廣喜（総合技術監理・建設・大分）

最近、技術士制度の改正を機運に、試験のあり方も含めた技術士制度に関する様ざまな議論が行なわれています。私は技術士に求めるのは「総合能力」であり、またそうであるべきと思います。まず、試験合格には次のような基本「能力」が求められる（要求されるレベルがそれぞれ違いますが）でしょう。即ち、

- ①技術力（実務経験・専門知識）
 - ②思考力（合理的な思考に基づいた問題解決能力）
 - ③表現力（筆記試験での文章力・口頭試験での説明能力）
 - ④記憶力（特に専門問題、一般問題）
 - ⑤精神力（自身の惰性や予期せぬ困難と戦う能力、強い忍耐力）
 - ⑥情報力（専門分野や社会経済情勢の最新情報の収集及び適切な処理能力）
 - ⑦対人能力（上司の理解・家族の支持等）
 - ⑧総合監理能力（受験勉強のための工程管理、コスト管理、健康管理等）
 - ⑨体力
- 等が試されます。

技術士を受験することはこれらの「総合能力」に対する総点検と言っても過言ではありません。従って、自身の「総合能力」を高めるには、技術士受験が最

良の手段と考えます。

また、これらの「総合能力」は「仕事の能力」そのものとも考えます。例えば、技術士合格の重要なネックとなっている「表現力」について言えば、私たちコンサルタント業界にとってはその重要性を増すばかりです。発注者協議や社内技術検討会だけではなく、地域住民に対する説明会も説明の簡潔・明瞭・分かり易さが強く求められています。また、設計ミス予防またはミス発生後の迅速且つ適切な対応ができるかどうかは、「報告書」の分かり易さ（基準及び根拠の明示・検討過程の詳記・図表の視覚効果の活用等）に大きく関わると思います。

「仕事が出来るけど、どうも技術士試験だけが苦手」という人が少なくありません。私はこれに疑問を感じます。「仕事ができる」といっても「その仕事は技術士のレベルの仕事かどうか、技術士的な考え方でやっているかどうか」が問題でしょう。いかなる業務に対しても常に問題意識を持って、弛まん探求心のもとで、不断の研究・検討を重ね、最善の方法を求めるのが技術士です。また、業務終了後、自分として何が勉強になったか、よく解決できた問題と疑問が残っている問題はなにか、労力とコストをもっと節約できる方法はないか、今回得た経験と教訓を次の業務にいかに生かすか、についても常に纏めてストックしておくのも技術士の心構えだと思います。

このような考え方をしっかり持って日頃一つ一つの業務の中にしっかり取り組んでいけば、その延長線上自然に合格できるし、合格後も、技術士としての活躍が大いに期待できると考えます。

☆ホットニュース☆

12月2日、九州経済産業局調査課の友枝係長が支部事務局に来られた。

来局の趣旨は、九州に「貿易、投資、技術提携」等の「ワンストップ機関」をつくるので、日本技術士会九州支部として協力して頂きたいというも

のであった。田中支部長、泉館副支部長、松尾業務開発委員長が対応したが、九州全域をカバーする「プロスキルアドバイザー」制度の設立趣旨に賛同し、登録に協力することになった。

詳細情報は、事の進展に伴って関係者に伝達していきたい。（松尾）

会員ニュース

☆(社)日本技術士会 (九州支部) 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先)
(連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)				
福岡	正会員	助川 直人	建設	〒819-0373 福岡市西区周船寺175-1 クレスト6-803号 ☎・FAX(092)807-7940 (株)建設環境研究所技術部 ☎(092)271-6600 FAX(092)271-6565
福岡	正会員	深沢 朗	建設	〒819-0025 福岡市西区石丸2-13-26タウンハウス石丸西側 ☎・FAX(092)885-6736 (株)ケー・デー・シー福岡支店 ☎(092)781-2880 FAX(092)781-2881
福岡	正会員	梅原 卓也	建設	〒811-4171 宗像市葉山1-14-11 ☎・FAX(0940)32-1036 (株)東亜コンサルタント ☎(092)415-1313 FAX(092)431-5331
北九州	正会員	吉永 高敏	建設	〒801-0833 北九州市門司区清滝1-6-20 ☎・FAX(093)332-1414 北九州市建築都市局計画部 ☎(093)582-2518 FAX(093)582-2503
北九州	正会員	小川 三平	機械	〒804-0093 北九州市戸畑区沢見1-6-3-303 ☎・FAX(093)882-2371 日鉄プラント設計(株) ☎(093)872-5725 FAX(093)872-5487
福岡	正会員	今村 瑞穂	建設	〒816-0822 春日市ちくし台5-17 ☎・FAX(092)585-3479 (株)建設技術研究所九州支店 ☎(092)714-2211 FAX(092)714-6310
福岡	正会員	森 勝義	建設	〒819-1321 糸島郡志摩町小富士1923 ☎・FAX(092)328-3070 三井共同建設コンサルタント(株)九州支店 ☎(092)441-3872 FAX(092)473-7789
北九州	正会員	佐藤 充重	経営工学	〒808-0147 北九州市若松区高須北1-7-13 ☎・FAX(093)741-2237 新日本製鉄(株)プラント事業部調達室 ☎(093)872-6911 FAX(093)872-6419
大分	正会員	加藤 正明	農業	〒870-0875 大分市青葉台2-9-15 ☎(097)546-2021 大分県国後半島総合土地改良事業事務所 ☎(0978)62-3616 FAX(0978)62-2441
福岡	正会員	國分 恒彰	建設	〒814-0032 福岡市早良区小田部1-11-25-301 ☎(092)843-6853 (株)福山コンサルタント福岡支店 ☎(092)471-1417 FAX(092)477-2570
鹿児島	正会員	玉崎 俊栄	農業	〒890-0044 鹿児島市常盤町937-3 パティオス常盤105号 ☎(090)7445-7051 太陽コンサルタント(株)九州支店 ☎(099)220-3301 FAX(099)220-3340
福岡	正会員	杉 秀峰	水道	〒811-4142 宗像市泉ヶ丘2-24-4 ☎(0940)35-0527 (株)オークス技術管理室 ☎(092)411-5730 FAX(092)411-5732
福岡	正会員	今岡 浩司	衛生工学	〒816-0845 春日市白水ヶ丘2-1 サンジコール春日302 ☎・FAX(092)581-5102 (株)九電工営業本部 ☎(092)523-0436 FAX(092)581-5102
福岡	正会員	笹原 秀生	衛生工学	〒816-0845 春日市上白水695サンリバー博多南603 ☎・FAX(092)592-2848 (株)九電工都市エネルギー室 ☎(092)523-0436 FAX(092)524-3662
福岡	正会員	大野 泰教	建設	〒819-0052 福岡市西区下山門1-19-8-405 ☎(092)885-3003 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社 ☎(092)885-5014 FAX(092)885-5006
福岡	正会員	片山 善仁	建設環境	〒819-0004 福岡市西区姪浜1205-1アーベイン四季姪浜3号棟809号室 ☎(092)885-2280 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社 ☎(092)885-5009 FAX(092)885-5003
福岡	正会員	堀之内 毅	建設	〒814-0032 福岡市早良区小田部7-21-2-206 ☎(092)847-1949 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社 ☎(092)885-5015 FAX(092)885-5003
福岡	正会員	勝木 昭貴	建設	〒819-0013 福岡市西区愛宕浜4-20-1 ☎(092)882-2662 パシフィックコンサルタンツ(株)宮崎技術部 ☎(0985)30-5360 FAX(0985)30-5361
福岡	正会員	手島 健治	水道	〒814-0133 福岡市城南区七隈2-20-8 ☎(092)874-3520 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社 ☎(092)885-5618 FAX(092)885-5004
福岡	正会員	岩本 達樹	建設	〒811-3425 宗像市日の里1-22-20 ☎(0940)36-7939 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社 ☎(092)885-5079 FAX(092)885-5006
福岡	正会員	持田 拓児	建設	〒814-0032 福岡市早良区小田部7-19-20-502 ☎・FAX(092)845-4262 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社 ☎(092)885-5008 FAX(092)885-5004
北九州	正会員	河本 理之	金属	〒800-0251 北九州市小倉南区葛原3-22-4 ☎・FAX(093)475-0551 東陶機器(株)水栓機器技術部 ☎(093)951-2588 FAX(093)951-2998
宮崎	正会員	出口 近士	建設	〒880-0942 宮崎市生目台東3-27-12 ☎(0985)58-7329 FAX(0985)58-7344 宮崎大学工学部土木環境工学科
福岡	正会員	高向 正典	建設	〒816-0972 大野城市平野台3-7-7 ☎・FAX(092)596-8144 日本工営(株)国際事業部 ☎(03)5276-2454 FAX(03)5276-3006
福岡	正会員	市原 仁志	建設	〒814-0032 福岡市早良区小田部6-2-30-204 ☎・FAX(092)851-0784 日本工営(株)福岡支店 ☎(092)475-7551 FAX(092)475-4330
福岡	正会員	藤木 明	建設	〒814-0032 福岡市早良区小田部6-17-17-502 ☎・FAX(092)845-3365 日本工営(株)福岡支店 ☎(092)475-7552 FAX(092)475-4330
福岡	正会員	中西 敏夫	建設	〒810-0044 福岡市中央区六本松3-11-12-202 ☎・FAX(092)771-3032 日本工営(株)福岡支店 ☎(092)475-7565 FAX(092)475-7089
福岡	正会員	大橋 広治	建設	〒814-0161 福岡市早良区飯倉2-9-15シティハイツ飯倉503 ☎(092)846-4697 日本工営(株)福岡支店 ☎(092)475-7558 FAX(092)475-4330
福岡	正会員	渡邊 純子	環境	〒814-0002 福岡市早良区西新1-10-14メープルコート西新406 ☎(092)846-3677 日本工営(株)福岡支店 ☎(092)475-7556 FAX(092)475-4330
福岡	正会員	因 治彦	衛生工学	〒811-2313 粕屋郡粕屋町江辻187-1 ☎(092)938-0799 (株)九電工都市エネルギー室 ☎(092)523-6132 FAX(092)524-3662
北九州	正会員	田所 裕	金属	〒804-0093 北九州市戸畑区沢見1-9-4-401 ☎(093)871-4950 新日本製鉄(株)技術開発本部 ☎(093)872-6158 FAX(093)872-6809
福岡	正会員	大嶋 盛隆	建設	〒814-0174 福岡市早良区田隈3-56-13 ☎(092)801-2311 (株)東光コンサルタンツ福岡支店 ☎(092)524-3401 FAX(092)524-3404
福岡	正会員	田上 建一	建設	〒811-1302 福岡市南区井尻1-13-3-101 ☎・FAX(092)581-3160 九州芸術工科大学環境設計学科 ☎(092)553-4400 FAX(092)553-4593

大分	正会員	今宮 照允	建設	〒870-1109 大分市判田台南3-10-6 (株)ティ・アイ技術センター	☎(097)569-0216 FAX(097)569-2128
北九州	正会員	後藤 恒一	機械	〒807-0827 北九州市八幡西区楠木1-6-2-201 (株)志摩テック設計部	☎(090)3418-7112 FAX(093)645-3928
福岡	正会員	松雪 清人	応用理学建設	〒814-0022 福岡市早良区原3-9-35ロマネスク原3-401 環境工学リサーチ(株)	☎(092)841-0068 FAX(092)714-3872
鹿児島	正会員	後藤祐一郎	農業	〒899-5231 鹿児島県始良郡加治木町友土909-29 鹿児島県土地改良事業団体連合会	☎(099)223-6111 FAX(099)223-6130
福岡	正会員	日暮光一郎	建設	〒812-2202 粕屋郡志免町志免2-27-1 (株)ジーエル都市計画	☎(092)935-5868 FAX(092)263-5664
熊本	正会員	和田 憲二	農業	〒861-2105 熊本市秋津町秋田3442-73 アジアプランニング(株)	☎(096)368-8059 FAX(096)363-2301
福岡	正会員	深谷 孝美	建設	〒816-0831 春日市大谷4-34-1ホワイトコーポ103号 (株)第一技研大阪支社福岡分室	☎(092)592-9407 FAX(092)475-3465
福岡	正会員	木村 演良	農業	〒818-0052 筑紫野市大字武蔵558-16 (株)上田測量設計福岡営業所	☎(092)921-1116 FAX(092)921-1138
福岡	正会員	味沢 泰夫	建設	〒811-1351 福岡市南区屋形原3-3-10 大成建設(株)九州支店沖繩営業所	☎(092)565-2060 FAX(098)866-4082
北九州	正会員	杉山 嘉則	建設	〒820-0011 飯塚市柏の森525-1-401 (株)麻生リニューール技術事業部	☎(092)624-1304 FAX(092)624-1309
福岡	準会員	安達 昌平	建設	〒814-0022 福岡市早良区原4-3-1アダージュ原番館304 (株)井上エンジニアリング九州支店	☎(092)831-5434 FAX(092)87-3371

☆九州地方技術センター入会

鹿児島	正会員	宇都 祐治	農業	〒899-0207 出水市中央町1425-3 (株)みともコンサルタント	☎(0996)62-2221 FAX(0996)62-2638
北九州	正会員	藤村 豊	建設	〒807-0053 遠賀郡水巻町下二東3-8-1 (株)総合エンジニアリング福岡支店	☎(092)472-1948 FAX(092)472-1917
福岡	正会員	国武 正光	建設	〒830-0047 久留米市津福本町1812-5 セントラルコンサルタント(株)福岡支店	☎(092)432-5385 FAX(092)432-5386
佐賀	正会員	堤 茂徳	建設	〒840-0853 佐賀市鍋島5-2-3-301 (株)中野建設土木部	☎(0952)24-3212 FAX(0952)28-7370
鹿児島	正会員	日高 重人	建設	〒891-1202 鹿児島市西伊敷6-25-9 コアアツ工業(株)	☎(099)229-8181 FAX(099)229-1117
鹿児島	正会員	萩原 清文	建設	〒890-0032 鹿児島市西陵5-20-26-116サーパス西陵 コアアツ工業(株)	☎(099)229-1115 FAX(099)229-1117

☆会員連絡先(住所)および勤務先変更

鹿児島	正会員	中村 哲也	建設	勤: 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-30-1タイセイビル7F (株)トンネル設計事務所	☎(092)482-0795 FAX(092)482-0796
鹿児島	正会員	稲田 博	建設	勤: 〒899-5431 鹿児島県始良郡始良町西餅田3141-16 稲田技術士事務所	☎(0995)65-4568
宮崎	正会員	北原 毅	建設	勤: 〒880-0015 宮崎市大工2-117 九州工管(株)	☎(0985)28-1122 FAX(0985)28-1106
宮崎	正会員	勝木 昭貴	建設	勤: 〒880-0303 宮崎郡佐土原町大字東上郡珂字堂ヶ迫16079-38 パンフィックコンサルタンツ(株)宮崎事業部	☎(0985)30-5360 FAX(0985)30-5361
福岡	正会員	森田 徹	水道	勤: 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-9-28 (株)福岡市高齢者能力活用センター	☎(092)451-8621 FAX(092)451-8623
福岡	正会員	花田 久	建設	勤: 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-2-11富士ビル赤坂 (株)富士メンテ	☎(092)726-9595 FAX(092)726-9597
福岡	正会員	小川 敏幸	建設	連: 〒815-0074 福岡市南区寺塚2-4-4-402 勤: 〒815-0031 福岡市南区清水1-21-32 (株)さとうベネック福岡支店	☎(092)554-2100 FAX(092)554-2101
北九州	正会員	後藤 恒一	機械	連: 〒811-3214 宗像郡福岡町花見が丘2-12-21	☎(0940)43-8867
北九州	正会員	本山 彰彦	建設	勤: 〒802-0002 北九州市小倉北区京町3-14-8 日本交通技術(株)九州支店	☎(093)551-2288 FAX(093)551-1594
長崎	正会員	松本 敏八	建設	連: 〒854-0055 諫早市栗西町212 勤: 〒851-0122 長崎市界1-2-27 (株)ウエノ	☎(095)837-1828 FAX(095)837-8937
北九州	正会員	益田 榮成	建設	勤: 〒802-0831 北九州市小倉南区八重洲町11-8 (株)三高コンサルタント	☎(093)962-1615 FAX(093)962-0202
北九州	正会員	是永 逸生	機械	勤: 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1 (株)北九州市産業学術推進機構産業連携センター	☎(093)695-3052 FAX(093)695-3018
北九州	正会員	沼尻 健次	機械	勤: 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1 (株)北九州市産業学術推進機構産業連携センター	☎(093)695-3006 FAX(093)695-3018
北九州	正会員	田辺 努	機械	勤: 〒812-8566 福岡市博多区博多駅前3-25-21 九州旅客鉄道(株)監査室	☎(092)474-2304 FAX(092)474-9789
佐賀	正会員	樋渡 常右	農業	勤: 〒848-0028 伊万里市脇田町1407-3 樋渡技術士事務所	☎(0955)20-1677 FAX(0955)20-1678
宮崎	準会員	新保 嘉英	化学	連: 〒885-0082 都城城南鷹尾町1521 勤: 〒885-0013 宮崎市都元町3201-26 医療法人敬和会	☎(090)7989-0007
福岡	準会員	三笠 眞吾	建設	連: 〒819-0924 大野城市栄町3-3-46筑紫寮28号 勤: 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1電気ビル別館10F 西日本技術開発(株)	☎(0986)22-1437 FAX(0986)22-3135 ☎(092)781-1177 FAX(092)781-9599

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………
 日本総合コンサルタント(株)九州支店
 (株)建設環境研究所
 (株)唯設計事務所
 日本建設コンサルタント(株)九州支店
 中央開発(株)九州事業部
 (株)ダイヤコンサルタント 西日本支社
 福岡支店
 日本工営(株)福岡支店
 昭和地下工業(株)
 第一復建(株)
 (株)松本組
 (株)エスケイエンジニアリング
 (株)東亜コンサルタント
 (株)福山コンサルタント
 (株)東京建設コンサルタント九州支店
 東亜建設技術(株)
 精巧エンジニアリング(株)福岡支店
 東邦地下工機(株)
 大成ジオテック(株)
 富洋設計(株)九州支社
 九州建設コンサルタント(株)福岡支店
 日本海洋コンサルタント(株)
 九州事務所
 (株)サンコンサル
 (株)橋梁コンサルタント福岡支社
 (株)アイ・エヌ・エー九州支社
 (株)九州地質コンサルタント
 (株)タイヨー設計
 日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店
 (株)大建
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)エス・ピー・エンジニアリング
 新地研工業(株)
 (株)カミナガ
 (株)構造技術センター
 平和測量設計(株)
 (株)高崎総合コンサルタント
 西日本コントラクト(株)
 西鉄シーイーコンサルタント(株)
 町田電気管理・技術士事務所
 日本地研(株)
 第一設計(株)
 九州環境技術研究所
 西日本技術開発(株)
 (株)富士ピーエス
 日本技術開発(株)

大和コンサル(株)
 アジアエンジニアリング(株)
 ……………〔北九州〕……………
 日本航測(株)
 大村技術士事務所
 (株)九州設計事務所
 九和設計(株)
 (株)押川測量設計
 (株)都市開発コンサルタント
 (株)松尾設計
 (株)酒見設計
 (株)太平設計
 冷牟田設計コンサルタント(株)
 山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部
 (株)安川電機
 (株)中村測建事務所
 環境テクノス(株)
 ……………〔佐賀〕……………
 (株)精工コンサルタント
 新九州測量設計(株)
 西日本総合コンサルタント(株)
 日本建設技術(株)
 (株)九州構造設計
 新栄地研(株)
 九州技術開発(株)
 ……………〔長崎〕……………
 大栄開発(株)
 (株)実光測量設計
 西日本菱重興産(株)
 太洋技研(株)
 (株)親和テクノ
 扇精光(株)
 (株)新栄設計事務所
 ……………〔熊本〕……………
 (株)九州開発エンジニアリング
 アジアプランニング(株)
 ……………〔大分〕……………
 佐伯調査測量設計(株)
 松本技術コンサルタント(株)
 協同エンジニアリング(株)
 (株)日建コンサルタント
 東亜コンサルタント(株)
 九州特殊土木(株)
 大洋測量設計(株)
 九州建設コンサルタント(株)
 西日本コンサルタント(株)
 南武コンサルタント(株)

東洋測量設計(株)
 九建設計(株)
 日進コンサルタント(株)
 ダイエーコンサルタント(株)
 ……………〔宮崎〕……………
 (株)弓場水工コンサルタント
 (株)ロードリバーコンサルタント
 (株)ケイディエム
 (株)親協
 南日本総合コンサルタント(株)
 (株)宮崎産業開発
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (有)福島測量設計調査事務所
 九州工営(株)
 (有)久保測量設計コンサルタント
 正栄技術コンサルタント(株)
 (株)東九州コンサルタント
 (有)日豊測量設計事務所
 日測コンサルタント(株)
 (株)水理設計
 (株)ダイワコンサルタント
 (株)白浜測量設計
 (株)杉田測量設計コンサルタント
 (株)ジオセンター M
 南興測量設計(株)
 (株)アップス
 (有)カツキ技術士事務所
 (株)共同技術コンサルタント
 (株)国土開発コンサルタント
 (株)外山測量設計コンサルタント
 (株)宮崎水道コンサルタント
 (株)都城技建コンサルタント
 (株)宮崎まちづくり計画
 (株)第一テクノコンサルタンツ
 ……………〔鹿児島〕……………
 中央テクノ(株)
 朝日開発コンサルタンツ(株)
 (株)久永コンサルタント
 コーアツ工業(株)
 大協(株)
 新和技術コンサルタント(株)
 (株)中村測量設計
 (株)日峰測地
 (株)大紀造園設計事務所
 (株)建設技術コンサルタンツ

お知らせ

〔I〕 支部細則について

日本技術士会会報「技術士」9月号に発表されたように、(株)日本技術士会の「役員選挙に関する細則」が改定されましたので、これに伴って九州支部の「役員選挙に関する細則」は自動的に廃止となります。(支部長 田中穰治)

〔II〕 1月のCPD集中研修会

“出かけ易い時にまとめて”との要望に応えるために、CPD委員会では平成15年1月の土曜日にCPDの集中研修会を開催します。

日時：平成15年1月25日(土) 10:00~17:00
会場：福岡商工会議所(福岡市博多区博多駅前2-9-28、JR博多駅から北へ徒歩10分、地下鉄祇園駅から徒歩5分)

研修内容と講師：

- ①建設のLCAと戦略的環境影響評価
名古屋大学大学院教授 井村秀文先生
- ②ハイテク製品とその開発
住友3M(株)社長 一柳 肇先生
- ③工学からみたバイオテクノロジー
九州大学名誉教授 石橋文彬先生

参加費：3,000円(当日徴収)

申込み：九州支部宛 FAX で (広報委)

会誌“技術士”最近の主要目次

平成14年9月号

- ・巻頭言 行政にとっての「技術」/青山 侑
- ・私の体験を通した国際協力のポイント/和田洋六
- ・知的財産権取引業のすすめ/田中満正
- ・学校における情報教育の動向/丑田俊二
- ・技術士CPDに関するアンケート調査について
- ・役員選挙に関する細則等の改定について

平成14年10月号

- ・巻頭言 文系の頭の構造/川口幹夫
- ・海外コンサルタント業務の留意点/橋本道哉
- ・技術者のための提言“継続教育”随想/三田村宏・情報化研究会 300回記念祝賀座談会/市川英彦
- ・カンボジア・アンコールワットと技術士の貢献/吉武進也

- ・社団法人日本技術士会細則
- ・役員選挙管理規則

平成14年11月号

- ・巻頭言 日本の技術力/小平桂一
- ・ミニ特集〔環境型社会実現への取り組み(続)〕
環境型社会に向けた環境関連法規動向/荒野詰也
CDMの活用とその課題/三好正夫
循環型社会形成の鍵を握る自動車/鈴木理夫
循環型社会形成と都市再生/人見信之
循環型社会と繊維製品/岩田浩
- ・近畿支部建設部会研修・見学会報告

編集後記

去る10月26日に、CPDの集中研修が行われました。テーマはIT。その出席者のアンケートでは、パソコンを持っている人が9割。もっとも、持っているから受講したと云えるかもしれませんが、IT時代に入っていることは間違いのないと思います。技術士のまわりでも、業務のほかあらゆる場面でインターネットが当たり前になってきました。

今度、支部では「IT推進委員会」が発足しました。支部業務のIT化推進とメンバーのITレベルアップ支援が主な仕事で、その手始めに、みなさまにアンケートをお願いしております。この号と一緒に届けられますが、ぜひ、ご回答をお願いいたします。支部のIT時代の幕開けです。

そしてどうぞよい年をお迎えください。(完戸)

発行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL:

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎/FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社